

キリ健全苗の育成技術

福島県林業研究センター 林産資源部

1 部門名

林業－特用林産－特用樹

2 担当者

長谷川孝則・奥寺芳夫・竹原太賀司

3 要旨

現在供給されているキリ苗は根系状態が不良なものや堀取りの際に受傷したものなど不良のものが多く、現場からは健全苗の供給が望まれている。ここでは、良質で活力のあるキリ健全苗木の生産技術を確立するため、根系の受傷機会をできるだけ抑制するという観点から、ポットによる育苗とポット苗の直接定植について検討した。

(1) ポットによる育苗方法

播種用土にパーミキュライトを用いると、種子や稚苗が立ち枯れ病等に汚染されることがなく、健全に育成できる。ピートモス等の有機資材を利用した用土を用いた場合は雑菌汚染が多発して苗の育成が困難であった。発芽後1ヶ月程度経過した後、大きなポットに移植して育成すると、生長が旺盛となり、より大きく健全な苗が得られる。当該方法では、土袴等が発生しないため雑菌汚染の恐れがなく、移植後も健全に育成できることが明らかとなった。また、分根からポット苗を育成しても健全で良好な苗が得られることが明らかとなった。

(2) 直接定植法による育成技術

圃場から掘り取って植栽するという従来の手法と比較すると、樹体の損傷は皆無であるとともに植栽作業に必要な労力も格段に少ないことが確認できた。

(3) 直接定植苗を利用した仕立て方の検討

整樹方法の違い(芽欠き及び台伐り)による生長量の差については、整樹当年においては上長生長(樹高)に差が認められたが、2年目になると上長生長、肥大生長(胸高直径)ともに差はなくなった。なお、芽欠きによる整樹は継ぎ手による曲りが形成される可能性が高いため、台伐りによる整樹が望ましいと判断された。

4 成果を得た課題名

(1) 研究期間 平成22年度～26年度

(2) 研究課題名 キリ健全苗生産技術の開発

(3) 参考となる成果の区分 (指導参考) (発展見込) (終了参考)

5 主な参考文献・資料

平成22年度～26年度 福島県林業研究センター試験業務報告